平成12年6月5日

渋谷区長
小　倉　　基　様

社団法人 日本建築家協会（ＪＩＡ）
関東甲信越支部 支部長　服部　範二
保存問題委員会　委員長　篠田　義男

同潤会青山アパートメント保存についての要望書

拝啓　時下 ますます ご清祥のことと お慶び申し上げます。

日頃は当協会の活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げる次第です。

私ども日本建築家協会では、都市の中で 建築が 景観・街並みを形成する重要な役割を担っていることを自覚し、また、それゆえ それぞれの建築物が永く使い続けられることによってこそ、街並みに文化と歴史とが継承され豊かな都市環境が実現されると考え、当委員会を中心に活動を重ねています。

さて、ご高承のとおり、「同潤会青山アパートメント」は生活文化史・建築史的価値が極めて大きいだけではなく、表参道の一街区を形成し、欅並木と一体となったその景観はもはや東京を代表する街並みとなっています。 市民に生きた文化として意識され、若い人たちもが都市の歴史的奥行きを肌で親密に感得しうるという、我が国の大都会にあっては全く稀有の例と言えましょう。これほど多くの市民が「街並み」としての愛着を共有している建築群を私たちは知りません。

この「青山アパートメント」の取壊し・改築計画が昨年11月に報じられて以来、私どもはこの計画の持つ社会的意味・影響が極めて大きいことに鑑み、幾度も議論を重ねてきました。

竣工後７０年を経て、老朽化と機能的な不適合に対する住民の方々の強い要望は良く承知しております。また、今回の計画に至るまでの当事者の方々の努力を想うと敬服の念を禁じ得ません。

しかしながら、上記のように、歴史的価値や都市景観としての独自性のみならず、「街並み」という 市民共有の文化的財産として 永く愛され続けてきた事実から考えますと、今回の計画の中で、この青山アパートが「解体」されるということは、いかにも残念でなりません。

私どもとしましては、何とかして表参道の現地に保存するそのすべを、関係する方々、市民の皆様と共に考えることができないかと、強く思う次第です。 今後の具体的計画実務の中で、渋谷区をはじめ関係する方々が上述の事情にご配慮下さり、「柔軟な計画」として「青山アパートメント」の街並みとしてのアイデンティティを現地に保存していくことは技術的に可能性のあることと考えます。

さらに、今般の計画は、都市・街並みが持つべき文化的価値を、市民が世代を超えて考える、その絶好の機会とも考えられます。

現在、我が国の都市部においては、経済的な事情など様々な理由で、近代の貴重な建築遺産が次々と失われています。多様化の時代と言われながらも、街には歴史を語る建物がなくなり、むしろ画一的で無表情な景観に急速に変りつつあります。失われた建物に刻まれた時間の重みは二度と取り返すことができません。古いものと新しいものとが共存し、奥行きのある都市空間を形成して行くことが、今日ほど求められている時はないと思われます。

以上、「同潤会青山アパートメント」につき市民が愛着を有する部分の現地保存が実現するよう、できるだけ多くの方々の英知を結集する方向での区長のご指導を切にお願いする次第です。

私どもと致しましても可能な協力をさせて頂きたく、お声をお掛け下されば幸いに存じます。

敬具

社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects
関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
Tel 03-3408-8291　Fax 03-3408-8294